

# 畜産共進会出品牛に対する 特別対策を



後迫 哲矢 議員

み、多難な時期を迎えつつあるが、今、畜産農家にとって、やりがいや、喜び、生きがいを得られるのは、よい牛を育て、楽しみながら所得を上げることでありませう。

畜産共進会は、農家同志が切磋琢磨し、優良牛を育てる競争心・向上心が生まれ活力を見出す一手法だと考えます。

町としても、長年畜産共進会の取り組みはされてきたが、郡内での成績は良い方ではない。大崎町が、他町に劣る原因は何か。共進会に対する計画的取り組みはないか。その現状を問う。

平成15年度大崎町畜産部門で、特筆すべき事項に、藤岡一夫氏の肉用牛経営に対する天皇賞受賞・県畜産共進会における、中山千春氏・中村哲男氏の最上位入賞は、和牛農家にとって大きな励みとなり、本町和牛の名声を高める業績となった。

本町はこれからも、和牛を中心に、畜産振興がはかられるものと考ええる。いよいよ、畜産農家も高齢化し、後継者不足が進

## 畜産振興協議会を 中心に対応

### 町長

畜産共進会の取り組みは、町の畜産振興協議会を中心に、優良牛の導入助成や、町畜産技連会、和牛部会、家畜商組合、下見協力員と合同で、導入も含めて推進を図っている。共進会対象牛は、年3回集合指導を実施し、重点農家は、技連会員を割り当て、農家指導をはかっているのが現状である。

## 共進会牛に対する 特別助成の考えは

### 後迫議員

現在、優良牛導入に対しては、助成策は講じられているが、現予算の中で、内容の見直しをして、



県畜産共進会

共進会牛への助成は考えないか。

## 検討したい

### 畜産課長

今のところ、特別助成の考えはないが、現予算の枠内でできるものがあるれば検討したい。

## 畜産共進会に向けた 農家育成策の考えは

### 後迫議員

今までは、集合指導や個々の指導が行なわれてきたが、地区的に新たな組織をつくり、農家育成をしていく考えはないか。

## 新たな組織も含め 現体制で農家育成

### 畜産課長

共進会に向けた対策は、農家の意識向上や、優良牛の選定など、本町の課題を解決するため、現組織体制は崩さないようにして、新たな組織の地区的編成も考え、積極的に農家育成をはかっていきたい。